

夏播きトウモロコシ有望品種「ZX8486」および「SH5937」

「ZX8486」および「SH5937」は、「30D44」並みの多収性および耐病性を有し、熊本県における夏播きトウモロコシ品種として有望である。

農業研究センター畜産研究所飼料研究室（担当者：原野幸子）

研究のねらい

飼料自給率の向上を図るには、生産費の多くを占める飼料費のコスト低減を図ることが重要であり、単位当たり収量の向上ひいては自給飼料の生産拡大に資する地域に適した飼料作物品種の選定が不可欠である。本試験では、本県に適した飼料作物の品種選定の資料とするとともに、新たに育成された優良品種の早急な普及を図るため、数年以内に市販開始予定の新品種を中心に品種比較試験を行い、収量性やその他の諸特性について把握し、優良品種を選定する。

研究の成果

1. 「ZX8486」および「SH5937」は、「30D44」と同等の乾物収量が期待でき、夏播きトウモロコシ品種として有望である（図 1）。
2. 「SH5937」は、「30D44」より乾雌穂重割合が有意に低く、乾物茎葉収量が多い傾向にあり、茎葉タイプの夏播きトウモロコシ品種として有望である（図 1）。
3. 「ZX8486」および「SH5937」の収穫時熟度は、「30D44」と同等で、本県において 8 月初旬に播種した場合、11 月中旬には糊熟期に達する（表 1）。
4. 「ZX8486」および「SH5937」の南方サビ病の発生程度は、「30D44」と同程度か低い（表 2）

普及上の留意点

1. 耐倒伏性については、3 年の試験期間中に倒伏の発生が見られなかったため、明らかではない。

表1 生育特性に関する調査結果

品種名	初期生育	稈長	着雌穂高	着雌穂高/ 稈長	収穫期 熟度
	極不良1～極良9	cm	cm	%	
ZX8486	6.3	239.6	114.7	47.9 b	-4.3
SH5937	6.6	243.9	129.3	52.9	-4.9
30D44	7.9	248.2	132.6	53.4 a	-3.6
標準誤差	0.8	8.8	6.8	1.1	1.2

- 1) 各数値は、3カ年の平均値。
- 2) 播種期は、2008年7月31日、2009年8月4日および2010年8月3日。
- 3) 施肥量は、N: 1.5kg/a、P2O5: 1.5kg/a、K2O: 1.5kg/a。
- 4) 標準品種は、「30D44」。
- 5) アルファベット間は、品種間において5%水準の有意差が認められたことを示す。
- 6) 収量調査は、熊本地方気象台観測による降霜初日の平年値(11月15日)前後を目安に実施した。
- 7) 収穫期熟度: 乳熟期以前 -8、糊熟期初期 -4、黄熟期中期 0、成熟期後期 4

表2 病害抵抗性に関する調査結果

系統名	倒伏	折損	虫害	南方サビ病			
	%	%	%	無1～甚9			
	3カ年平均	3カ年平均	3カ年平均	3カ年平均	H20	H21	H22
ZX8486	0.0	0.0	2.9	4.7	4.3	4.0	5.7
SH5937	0.0	0.0	2.0	2.9	2.3 b	2.0 b	4.3 b
30D44	0.1	0.6	5.0	4.7	4.7 a	3.3 a	6.0 a
標準誤差	0.1	0.3	2.6	0.7	0.5	0.2	0.3

- 1) いずれの項目も3カ年の平均値については、「30D44」との間に有意差は認められない。

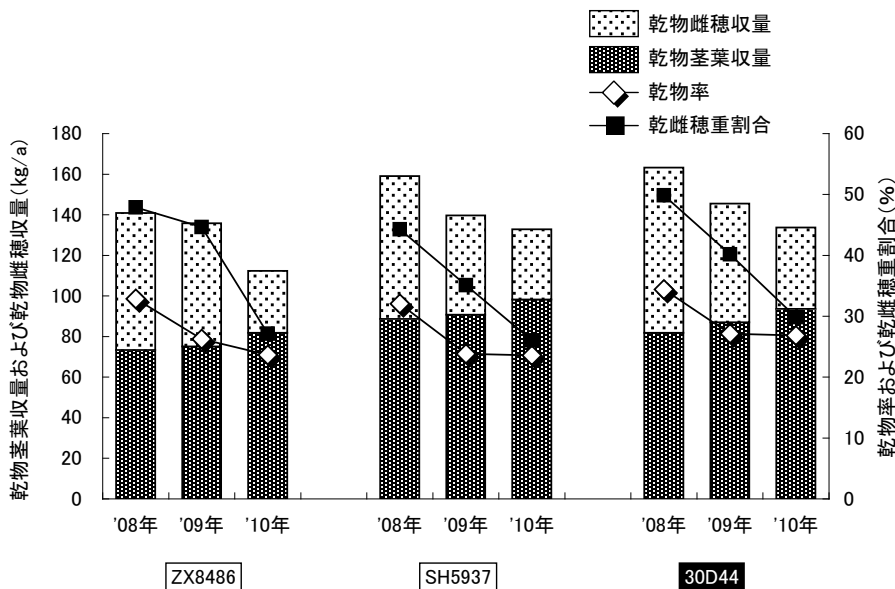


図1 品種ごとの3カ年の乾物茎葉収量、乾物雌穂収量、乾物率および乾雌穂重割合

※乾雌穂重割合のみ3カ年をとおして、「SH5937」と「30D44」との間に5%水準の有意差が認められる。